

	課題分析	授業改善策
国語	①漢字の書き取り、文法に苦手意識をもっている生徒が多い。 ②試験における問題文の理解、解答の仕方に難しさを感じている生徒が多い。	①日常的に使用させることが必要なので、手で文章を書く作業を増やしていく。 ②ワークを活用し、答え合わせ、解説までを丁寧に行い、解き方、考え方を定着させる。
社会	授業アンケートの結果から、ほとんどの生徒が学習内容を理解しているが、あまり理解できていないと感じている生徒が一定数いることがわかる。また、用語を覚えることに苦手意識をもっている生徒がいることがわかる。	重要な用語については、授業で繰り返し取り上げることで、知識の定着を図る。一方で、単に知識を暗記することよりも、資料やデータの読み取り方を身に付けることが大切であることを説明し、資料やデータの読み取りと活用能力を育てる。また、生徒がグループワークや作業に取り組んでいるときに、机間指導をしながら形成的評価を積極的に行って、生徒の学習意欲を高める。
数学	①基礎的・基本的な「知識・技能」の習得については、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ②「数学的な見方や考え方」を伸ばす指導の工夫が必要である。 ③振り返りにおいて、誤答に対する分析が核心までたどり着けていない生徒が多い。	①単元の始めと終わりに、振り返りテストを実施し、既習事項を振り返り、習得状況の確認を行う。机間指導、ワークシート等の活用を通して、基礎的・基本的な「知識・技能」の定着を図る。また、単元テストや定期考査を通じて、生徒のつまづきを発見し、的確な助言や指導を行う。 ②答えを教えるだけでなく、生徒自身に、「なぜそうなるのか?」「ほかに方法はないのか?」などの問いを立てさせ、多角的な視点でとらえる力を養う。 ③習熟度に応じて、発展的内容を取り入れる。1つの課題を深く検討する時間を設けるだけでなく、類題等にも触れる中で思考力・判断力・表現力を伸ばす工夫をする。 ④ICT を活用して、抽象的な数学の概念を視覚的に提示し、具体的なイメージをもたせることで生徒の理解を深めていく。 ⑤Google フォームを用いて、自身の学習の取組に対して、適宜振り返りをする機会をつくる。成功要因や改善点に気づき、自己理解を深める。
理科	授業アンケートの結果より 90%以上の生徒が「理解できている」と回答している。しかし、化学式や化学反応式に対して苦手と感じている生徒が多くみられる。	世の中の様々なものと化学式の間接的関係を授業で取り上げ、興味をもたせる。その上で様々な単元の授業で化学式を取り上げ、化学式で表すことに慣れさせる。また、基本的な化学反応式を書く練習を定期的実施する。
音楽	授業アンケートでは理解できていると答えた生徒は 87.9%だった。楽譜の読み方や記号について理解するのを苦手になっている生徒が多く、逆に、歌や発声について得意としている生徒が多かった。音符や記号を理解していても楽譜どおりに歌うことを苦手と答えた生徒も数名いた。範唱を参考にして曲を覚えて演奏する方法から、自分で楽譜のリズムと音の高さを読んで演奏することを多く実践し、表現の充実につなげることが課題である。	①楽譜を自分で読むことを短時間でも何回も繰り返すことで、苦手を少なくする。 ②なぜ、そこにその記号があるのかを考える機会を多くして、記号について考え表現する時間を多くすることで、楽譜を表現することが得意な生徒を増やし、合唱コンクールのレベルアップにつなげる。
美術	①細密描写に真摯に取り組む生徒が多い。 ②多くの生徒に、版画の線描の美しさを感じとり、表現しようとする意欲がみられる ③集中力が持続せず、手が止まる生徒が若干名見られる。	①真摯に取り組んでいる生徒には、引き続きほめるように声をかけていく。 ②彫刻刀の線彫の工夫をアドバイスしていく。 ③手が止まったら、作業内容の確認をして取り組むように促す。
保健体育	習得した知識をもとに、自己の課題や改善点を具体的に記入することができていない生徒が多い。	①授業時に記入する際のポイントを伝える。 ②振り返りの良い例と悪い例を示し、自己の記入したものと照らし合わせて、生徒が次回に向けて改善できるようにする。

技術・家庭	①意欲的に学ぼうとする姿勢が見られる。 ②対話的・協働的な活動に、積極的に取り組むことができる。 ③発展的な課題に対して、深く考えたり表現したりする方法を難しく考えてしまい、活動を止めてしまう傾向がある。	①ICTの活用や体験的な活動の設定で、興味関心を高め、さらに主体的な態度を育成する。 ②資料や作業の進め方の例を提示して目標達成までをイメージさせ、理解が技能につながる支援をする。また、繰り返し声をかけるとともに、時間設定を工夫する。 ③対話的・協働的な活動の中で視野や考え方を広げ、様々な情報を得た上で知識を活用する力を伸ばす。 ④課題解決までの思考過程を明らかにし、個々に応じた指示、助言、補助を行う。
外国語（英語）	①既習の語彙や表現の定着が不十分であるため、ライティング活動における表現力が不足している。 ②教科書本文の読解や、語句の並べ替えといった「構造の理解・選択」は解ける。しかし、ゼロから英文を構成して表現することに対して強い苦手意識をもっている生徒が多い。 ③品詞の順番が定着していないため、自由英作文では文法的なエラーが起きやすい。	①単語テストを定期的に行い、日常的に英単語を学習する機会を設ける。「話す→書く」の流れで段階的にアウトプットをする作業を取り入れる。 ②単なる構造理解にとどまらず、「なぜそう判断したのか」という思考の過程や根拠を振り返る場面を設定する。さらに、生徒同士で共有させることで深い学びへとつなげる。 ③コミュニケーション活動を通して、形式的ではなく感覚的に語順を定着させる。また、パターンプラクティスを繰り返し、限られた語彙でも多様な表現力が可能であることを体感させ、表現力を高める。